

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり 421

―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

「新聞記事から思うこと」

古後小学校 6年

宿利 みさき

五年生の二月の終わりに、学校がとつ然休校になりました。新型コロナウイルスの感せんが日本各地に広がり始めたからです。

それからずっと、ニュースの話題といえば、新型コロナウイルスのことばかりです。

ここで感せん者が出たか、感せん者の数、亡くなった人の数などが毎日伝えられています。

世界中にこんなに速く感せんが広がっていくことにおどろきました。

四月になり、学校で、ある新聞記事を読みました。

感せんした人や濃厚接触者への偏見や中傷が増えているという記事で

す。

感せんがわかった男性が、二次被害を防ぎたいという思いで、自分が行っていない店も消毒して、店を休みにすると、「ここが感せん源か。」

「近よると危ない。」という事実とちがう「うわさ」が広まったそうです。

濃厚接触者として検査を受けて、いん性だった男性も「ウイルスをまき散らしている。」「危ないから来るな。」と言われたそうです。

医りようじゅう事者の家族も差別を受けたというニュースも聞きました。

「コロナウイルスに感せんしたくないという気持ちもわかります。もし県内や町内で感せん者が出たらと考えると、こわいです。」

けれど、勝手に決めつけたり、人を傷つける言葉を言ったりすること

は、絶対にしてはいけないことだと思います。

もし、自分が新聞記事のような差別を受けたり、中傷されたりしたら、今までのような生活ができなくなると思います。

学校の友だちと遊べなくなり、一人ぼっちになって、とても悲しい思いになると思います。

私は、自分自身について、「決めつけ」たことがないかをふり返ってみました。

すると、これは「決めつけ」かなと思うことができました。

中国で、コロナウイルスが流行っているから、中国のすべての人がこわいと思っていました。

また、県外ナンバーの車を見かけると、「感せんしそうだ」「来ないでほしい」と思うことができました。

県外ナンバーも、もしかしたら県内に住んでいる人もかもしれません。

私も知らず知らずのうちに、「決めつけ」てしまっていることに気づきました。

自分や大切な家族が、事実とちがう「うわさ」をされたり、「決めつけ」られたりしたら、立ち直れない

くらいショックを受けると思います。

だから、私はこれから「決めつけ」たり、差別をしたりしないような人になりたいと思いました。

「もし、自分が言われたら」ということを考えていきたいです。

デマや誹謗（ひぼう）・中傷が社会に広がる背景には、「強い恐怖心」や「嫌悪感」があると書かれています。

みさきさんが言われるように、自分の中にもある偏見に気付き、どうあるべきか考えることが本当に大切ですね。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別について気づいたことや感じたことを、二〇〇字程度にまとめてみましょう。住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名可）、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。

